

予知保全の導入により資産を有効に活用

IoTとAIを用いて「常時稼働」を維持する方法



メリット

- 統合ワークフローにより市場投入までの時間を短縮
- プロセスを最適化して生産コストを削減
- 予知保全によりダウンタイムを最小限に抑制
- 従業員の安全と満足度を向上

計画外のダウンタイムは、工業メーカーに年間何十億ドルもの損失をもたらす、業務の大規模な混乱や安全上の問題を招くおそれがあります。メーカーは予知保全戦略を導入することで、こうした問題を回避し、顧客満足度や生産性の向上、コストの削減、安全性の強化を実現できます。IoT、AI、機械学習(ML)の技術を活用して保全プロセスを変革することで、継続的かつ効率的に運用を行うことが可能になります。

市場投入までの時間を短縮

予知保全をワークフローに組み込むことで、業務効率の向上と遅延の低減を実現できます。製品が顧客により早く届くようになるため、競争力の強化につながり、顧客満足度も向上します。

「インダストリー4.0の環境では、保全の目的は個々の資産のダウンタイムを防ぐだけに留まらず、それ以上の役割を果たします。高度な分析を用いて障害を予測することで、設備の稼働率を20%向上させることができます」

– Deloitte¹

¹ Deloitte、『Predictive maintenance』、2022年

サービス

コンサルティングサービス

お客様の具体的なニーズに合わせた予知保全戦略の実装について、専門家がアドバイスします。

マネージドサービス

保全プロセスの管理と最適化を包括的にサポートし、継続的で効率的な運用を実現します。

ラーニングサービス

予知保全の技術を効果的に活用するために必要なスキルと知識を身につけるための、トレーニングプログラムとリソースを提供します。

リソース

[製造業のトータルエクスペリエンス](#)

[予知保全の導入により資産を有効に活用](#)

[生成AIによる製造の変革](#)

[製造業のデジタルスレッドの構築](#)

[製造業の安全な職場](#)

生産コストを最適化

予知保全は、非効率な工程を特定してプロセスを最適化するのに役立ち、大幅なコスト削減につなげることができます。また、無駄を最小限に抑え、リソースの配分を改善することで、よりコスト効率の高い生産サイクルを実現できます。

ダウンタイムを最小限に抑制

予知保全では、IoT、AI、機械学習(ML)の技術を活用して、深刻化する前に潜在的な課題を検知します。このように問題の発生を未然に防ぐことで、ダウンタイムを最小限に抑え、円滑で継続的な運用を実現できます。

従業員の安全と満足度を向上

従業員の安全と満足度は、生産性を高め、仕事への意欲を高めるうえで不可欠です。予知保全を導入すると、事故につながる可能性のある設備の故障を未然に防ぎ、安定性と予測可能性に優れた作業環境を実現できます。その結果、従業員の安全性が向上し、仕事への満足度が高まり、働きやすい職場文化が醸成されます。

予知保全を導入することで、製造プロセスの改革を促進し、業務の効率化、安全性の向上、コストの削減を実現できます。この戦略的アプローチは、収益性の向上だけでなく、運用全体の質と信頼性の向上にも寄与します。

IoTやAI/MLといった技術を活用して保全プロセスを変革することで、継続的かつ効率的に運用を行うことが可能になります。OpenTextは、既存のワークフローにシームレスに統合できるソリューションを提供することで、業界で独自の地位を築いています。当社の高度な技術によって提供される実用的なインサイトと強固なサポートにより、メーカーは安心して予知保全を導入できます。OpenTextを導入すると、事業運営の全体にわたってレジリエンスを構築し、生産やサービスを止めない「常時稼働」体制を実現できるため、長期的な成功と信頼性の向上につながることができます。

「IoTを活用した予知保全は、テクノロジー主導のデジタルビジネス変革を進める際の優先的なパイロットイニシアチブとして、さまざまな業界で採用されています」

– Gartner²

2 Gartner、『Competitive Landscape: IoT-Enabled Predictive Maintenance Solution Vendors』、2021年

「GARTNERは、Gartner, Inc.および/またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークであり、ここでは許可を得て使用されています。All rights reserved.」